

特選

ふるさとの名物おやき送り来ぬ野沢菜の餡忘れ得ぬ味

西片 松林 利枝

蝻螂とうろうの小さけれども首傾かしげ斧をかざすは勇氣のごとし

小日向 内野 仙也

こぼれ陽の明るく差せる森の奥この夏初めての蝉の声聞く

大塚 加藤 善雄

入選

何となく心安まる湯の町よ大正館あり昭和館見ゆ

春日 二村 吉光

花びらを空にかざして虹だよとにつこり笑う孫のいとしく

目白台 並木 ミヨ

雨に濡れ色それぞれに鮮やかな紫陽花分けて電車登りつ

千駄木 伊藤恵津子

いわきより届く四つ葉のクローバーに込められている明日への願い

向丘 三宅あき子

炎天の坂道登るその先に羽を広げし揚羽あげはに出会ふ

水道 菅井 茂子

七十年経て疎開地の同期会傘寿さんじゆの顔は幼な子になり

向丘 高野 伸子

此の所渡り鳥なるつばめ見ぬ待ち続けをる姿見る日を

小石川 白鳥 茂子

俳壇

松澤 雅世 選

特選

古稀といふ自在の齡よわい浮いてこい

向丘 三宅 あき子

此処ここを出で何処い い はずこへ誘ふ初夏の風

関口 関谷 汁吾

紫陽花のけふの自分を照らしをり

千駄木 山田 経子

入選

蝉を追う子よりも母の声高し

春日 岡田 政己

エンディングノートにまぶし夏日かな

大塚 佐々木 節子

気がつくと手を合わせたり秋の月

水道 高木 マリ

朝顔やすでに発ちたる登山靴

春日 二村 吉光

船虫へさこぎの舳先にはぐる親子かな

向丘 丸岡 正児

シャボン玉消え去ることにいさぎよ潔く

本郷 柳田 吉彦

目高の子無口な父と会話して

湯島 山添 昭子